

障害:偽装された機会

ジム・プリンクレイ

フナは限りというものではなく、望む通りに人生を創り出す力を私たちは各自持っている、と教えます。障害に直面したらどうしたら良いのでしょうか？障害も他の全てと同様に私たちの思考によって創られています。私たちは自分自身の道に意識的には障害を置かないので、無意識に障害を起こしています。私たちの無意識ク(ku)^{訳注1}は、意識口ノ(lonon)^{訳注2}によって一度は発せられ、少なくとも暗黙に了解された指示の記憶に従って行動します。これらの指示はもはや適正でなくても、最新の指示に置き換えられるまでは、準拠されます。身体的な経験は全て思考経験の反映なので、時代遅れの指示はしばしば、無意識が意識に対して障害という形で伝える事に反映されます。

時代遅れの命令は変化への恐れ、自分の能力への不信、自分の価値への不安、自己評価の欠如、古傷への憎しみ、何かを表出できない無能さへの怒り、過去に侵された誤りを無意識に感知しての罪悪感として経験されているでしょう。無意識は常にあなた(意識)と協力して、愛による調和を保つのを望んでいます。しかしいくつかの、または多くの否定的感情が無意識に現在望んでいる事を表わす探求を妨げます。障害を避ける方法は、無意識に対し、愛にあふれた励ますやり方で教え導き、無意識の協力を得ることです。あらゆる障害は思考によって創られるので、思考により取り除くことができます。

全て限りというものは幻で、障害とは無意識が認知する未解決な感情的葛藤を反映しているのです。全ての障害は実際には好機です。限りを取り除いて葛藤を解決する機会です。ですから各々の明らかな障害を代わりに挑戦とみなすのはとても役に立ちます。挑戦は隠された好機を見出すことです。

数年前職場で共同経営者を雇いました。彼の仕事量はなかなか増えず、彼は望む程多忙ではありませんでした。彼に支払う為に賃金カットをしなければなりませんでしたが、私は喜んでいました。なぜなら私の仕事量は一人でこなすには多すぎたからです。ある日彼は突然仕事を辞めると私に告げました。私の最初の反応は失敗、失望、恐れ、抑うつ的一种でした。私は一人では仕事を扱えないのを知っていましたし、二人分としては十分でないのも知っていました。

数日間私は打ちのめされた思いでそんな自我意識をさまよいました。ついに私に見えていなかった機会に気がつきました。フナ研究で学んだテクニックを用いて瞑想している時閃いて、仕事仲間の一人に電話し、私と力を合わせて仕事をするのに関心があるかと尋ねました。結局彼も一人では多すぎるが二人には不十分な仕事量を持っているのが分かりました。一緒にすると三人にとって十分な仕事量になりました。

私たちは提携し、最初の人を加え、さらにもう一人新しいパートナーを私たちのグループに加えました。経常経費が削減され、自由な時間が増え、私たち双方が常に望んでいたタイプの労働状況で一緒に働く喜びを得ました。この様な事はどれも、私が最初に私の不手際による障害だと感じた挑戦がなくては起こらなかったでしょう。

ある霊的な教師はこの様な現象を真空の法則と呼びます。何かが自分の現実から逸れると、新しくてより良い何かを引きつける真空が創り出されます。私の共同経営者は理想的な労働環境の機会を引きつける為に辞職しなくてはなりませんでした。時々、恋人やつれあいさえも、もっと素敵な関係に場を与えるために、別れなくてはならないことがあります。仕事を首になるのは嬉しくはありませんが、よりよい職を得る機会が表われ出るのを可能にします。明らかな障害は隠された機会を見つける挑戦にすぎないことの別な言い回しです。

各々のフナ原則には原則を要約するキーワードがあります。各々の原則には挑戦もあります。覚醒への挑戦は無関心です。無関心なら、真の目覚めは出来ません。観る練習をしてください。

自由への挑戦は限りです。どのようであれ、限りを感じたら真に自由ではありません。ですから、限りを取り除く練習をしてください。集中への挑戦は混乱です。どの方向へ行くか混乱していると、どの方向にも集中できません。ですから、集中する練習をしてください。

継続への挑戦はぐずぐずと先延ばしにすることです。先延ばしにしていると、今・ここで行動していません。ここに居る練習をしてください。愛への挑戦は怒りです。怒りや憎しみを隠していると、真に愛せませんし、愛されません。ですから、喜びを分かち合う練習をしてください。

自信への挑戦は恐れです。何事か誰かに恐れを抱いていると、自信が持てません。自信を増す練習をしてください。柔軟性への挑戦は厳格さです。思考や行動に柔軟性がないと、効果的でなくなります。効果的な新しい方法を練習してください。

いつでも霊的に訪れて、限りを取り除き、障害を克服し、挑戦を調和させ、機会を見つけ出す練習が出来る場所があります。挑戦ランド (The Land of Challenge) と呼ばれます。そこへ行く目的は明らかな障害に遭遇し、調和し、常に潜んでいる隠された機会を見つけ出すことです。毎回の霊的な旅は、無意識ク(ku)を訓練する思考の演習です。思考という現実で無意識ク(ku)が学ぶ事が物理的な現実で反映するので、思考の現実において挑戦の中から機会を創造する練習をする程に、物理的世界においても同様な事をするのに気づくでしょう。

障害を好機に転換する為、私と一緒に挑戦ランド (The Land of Challenge) へ行ってみましょう。そのランドへ行くには、静かな場所へ行き、くつろいでください。邪魔されない時間と場所を選んでください。眼を閉じて、気を散らす音や臭いが無い場所を選んで、妨げになる感覚を取り除いてください。人生で追求する目標を考えてください。では静かな、人気のない穏やかな状況で道を歩いているのを想像してください。入り口らしきものを探してください。地面の穴や丘の中腹の洞窟や大木の幹の洞だたりするでしょう。入り口が見つかったら、中に入ってください。ちゃんと明かりが灯され、快適に歩くのに十分大きなトンネルの中にいるでしょう。トンネルをもう一つの現実へと下っていきます。トンネルの遠い向こう端を出ると、挑戦ランド (The Land of

Challenge)に入ります。

目の前にはいくつかの道があります。一つを選んで歩き始めてください。最初の挑戦が登場してくるでしょう。恐ろしい獣や巨大な壁、激流の河、火山の噴火などが、無意識ク(ku)が用意する挑戦のシンボルとして表われるでしょう。それを眼にしたら、他の全てと同様に挑戦も生きていて、意識していて、反応するのを思い出してください。言葉や思いでそれに話しかけてください。自分の目標と、挑戦を乗り越えて、それが提供する機会を学ぶ必要があるのを説明してください。挑戦にとって必要な事とその目標を見つけ、挑戦と自分の双方が目標を達成出来る方法と一緒に辿り着くようにしてください。協力しながら自分の挑戦を乗り越えて目標を手に入れる機会と一緒に調和の中で見つけてください。

挑戦に対し愛ゆえに協力をし、その中やその向こうに隠されていた機会を見つけ終わったら、他の挑戦に会う為に歩みを進めても良いし、分離された世界である物理的世界に戻っても良いです。準備が出来たら、深呼吸をし、眼を開け、現在(居る場;訳者)へと戻ってきてください。新しく見つけたことを祝福し、活用してください。

挑戦ランド(The Land of Challenge)へ最初に旅する時、旅はとても恐ろしいものになるかもしれません。創造的な夢とも称される指示による想像を行います。行動しているのですが、夢を見ているのですから、簡単に悪夢になってしまいます。挑戦が非常に恐ろしくて夢の中に留まっていると気分が悪くなり、挑戦に出会えなくなるでしょう。初心者には自然な経験です。それを避ける素晴らしい方法があります。

とても力強く、物知りで恐れ知らずの霊的ヘルパーの助けを常に得ることが出来ます。霊的ヘルパーは人間、動物、漫画の登場人物、望む通りの姿になります。女性、男性、あるいは無性、若く、年寄り、あるいは年齢がないかもしれません。限りというものはありません。

霊的ヘルパーを探すには、地下世界へ戻るだけです。最初の挑戦に向かって道を進み出す時、霊的ヘルパーに姿を現す様に頼んでください。守護霊(超意識;aumakua)に霊的ヘルパーを送るのを頼む方がよければそうしてください。霊的ヘルパーがどんな姿にでもそれ自身が選んで現れる方が、特性を限定してしまうより良いです。霊的ヘルパーが現れたら、気持ちに通い合うまでしばらく声に出して、または念で話しをしてください。愛と知恵、守護と力を感じてください。挑戦ランド(The Land of Challenge)での旅の一步一步を共にするのを知ってください。手に負えないような挑戦に直面したなら、霊的ヘルパーに必要な忠言を求めると、与えられるでしょう。

訳注 1 無意識ク(ku)とは、身体的な自己を指して、記憶や習慣等の機能を有している。

訳注 2 意識口ノ(lonono)とは、知的な自己を指して、無意識ク(ku)への指示、解釈、感知、思考、等の機能を有している。

訳注 3 フナの原則とは；

第一原則 Ike：世界はあなたが考える様にある。

第二原則 Kala : 限りというものはない。

第三原則 Makia : エネルギーは注意が向く方へ流れる。

第四原則 Manawa : 今が力の時である。

第五原則 Aloha : 愛は共に幸せに生きること。

第六原則 Mana : 全ての力は内から出る。

第七原則 Pono : 効力は真実の尺度である。

翻訳 M. Hayashi (2005)

Copyright 2003 Aloha International